

自ら意欲的に学習する子どもを育てる社会科教育の研究

子どもが興味をもって取り組む歴史学習の指導を通して

津野町立精華小学校 教諭 渡邊 敏記

社会科学習において子どもたちが意欲的に活動し基礎・基本を身につけるためには、興味・関心を引く「教材」と学び方を理解し学習方法が身につけていることが必要不可欠である。学習方法を身につけるためには、「効果的な調べ方」の習得と教材から学び取り思考することの経験が重要である。そこで、「効果的な調べ方」を知り身につけると、歴史をより身近に感じることでできる高知県や地域の教材を開発することにより、学習を深める研究を進めてきた。

キーワード：調べ方マニュアルカード、地域の歴史学習、教材開発、年間指導計画、第6学年社会科

1 はじめに

国際化、科学技術の発展、そして情報化が急激に進み、高齢化・少子化など様々な面で社会は急速に変化している。その変化する社会のなかで、子どもたちが生きていくために必要とされている力の一つに、「自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」がある。小学校社会科においても、学習指導要領の改訂の要点に「社会的事象に関心をもち、公正に判断できるように、各学年の発達段階に応じて、観察、調査したり、各種の資料を活用したり、調べたことを表現したりするとともに、社会的事象の意味や働きなどを考える力を育てること。」と明記し重視している。

社会科の教科としての目的は、「調べ方」を学ぶのではない。「調べる」ことにより、問題解決能力を身につけ社会的事象に対し主体的に考えたり、判断する力を育てたりするなかで、知識の獲得を目指すものである。そう考えると「調べ方」は、一種の学習方法にしか過ぎない。しかし、どの教科においても意欲をもって、自ら調べ問題解決したことに対しては、子ども達は自信をもち、主体的に考えることができ知識として身につく。つまり、子ども達の「わからなかったことが、わかってうれしい。」や「もっと知りたい。」「へえ、そうなのか。」というような活動や意欲的な思いが学習には必要である。子ども達一人ひとりが楽しく調べることができる「効果的な調べ方や手順」を考え、暗記科目として思われてきた社会科を「調べる」活動を通して、「調べ・考える社会科学習」として展開することが大切であると考え。

2 研究目的

「調べる」という力（自己学習力）は、授業のなかで子どもが社会的事象に主体的にかかわっていくうえで必要不可欠な力であるだけでなく、子どもが将来出会うさまざまな問題を自分なりに解決し、主体的に生きてくためにも身につけさせたい力である。

ところが、自分の実践を振り返ってみると日々の社会科学習における「調べ学習」が、本当に子どもたちに有効であったかを考えると、うまく生かしてなかったように思う。その反省点も生かし、これから必要とされている学習方法の一つである「調べ方」を社会科を通して研究を深めていきたい。

また、「調べる」の研究に関連させて「教材開発」にも力を入れていきたい。意欲的に調べる学習活動には、興味・関心を引き出す教材、または教材研究が必要であると思われる。6年生の歴史学習を対象にして、「地方史と中央史との関連を図った歴史学習」となる資料を収集し教材開発を計画している。この教材を取り扱えば、現実から離れた歴史学習を子ども達はより身近に感じるができるで

あろうと考えられる。

「地方史と中央史との関連を図った歴史学習」となる教材の開発と、調べ方を身につけ効果的に活用する子どもを目指し、立案・検証・修正を行うことにより、社会科の目標である「公民的資質を育てる」「国土・歴史に対する理解・愛情」の部分の育むことができたか、また本テーマである「意欲的に学習し、調べ方を身につけ学習に有効に調べ生かすことができたか」を分析し、まとめとしたい。

研究仮説

- ・子ども達が「調べ方」を身につけ効果的に活用できるようになれば、主体的に学習活動が展開されるであろう。
- ・「地方史と中央史との関連を図った歴史学習」となる教材を扱えば、歴史を身近に感じ、興味・関心をもって自ら探求し、社会科の目標でもある国土と歴史に対する理解・愛情も深まるであろう。

3 研究内容

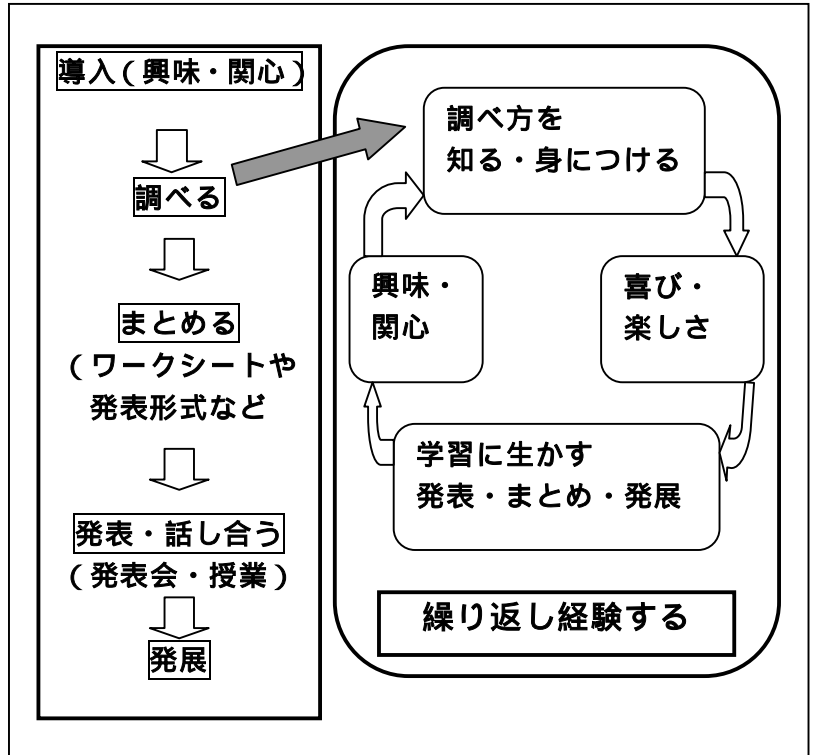
(1) 社会科における「調べることの意義」

他教科でもいえることだが、調べ活動は各単元のねらいに応じて組み込まなければならない。社会科においてつかませたい内容や深めたい内容（基礎・基本）を明確に把握し、それらを調べ学習の中心にすえたり関連させたりして学習を深めたい。子どもたちは、単元の導入で人物や歴史事象に興味をもち、自らの力で調べることにより知識の獲得となる。そのことを更にまとめたり発表したりして、授業の中でみんなと考え学習に生かすことができれば、社会科の目標に迫ることができる。また、自主的な活動で得た知識をもとに学習を深めれば、人物や事象に対し主体的に考え取り組むことができると考えられる。もちろん教材や発問などは、授業の中で重要である。それと同様に、調べる活動を重視した学習を経験させ身につけさせることは、子どもたちにとって学習を理解させるだけでなく、生涯にわたっての意欲や学習の仕方を習得することにもつながる。社会科は、生涯にわたって学習していくものである。一人ひとりの生活に密接に関連した教科である。例えば歴史学習においても、人物や歴史事象に感動したり共感したり、また学ぶ意味を考えたりすることで、子どもたち一人ひとりが主体的に考え、前向きに社会の一員としての自分の考えを形成する素地となる。

興味・関心をもち自ら調べることで、これからの社会生活において必要とされる社会科の「内容」と「調べる力」を、小学校社会科では「素地作り」と考え取り組んでいきたい。

(2) 調べ方マニュアルカードの作成

小学校の社会科には、単元のほとんどに調べ活動が組み込まれて計画されている。調べる事象によっては、時間を要するものもあれば、短時間で調べることができるものもある。また、調べ方にも様々な方法があり、その場に応じた調べ方を子



どもたちに知らせ、身につけさせたいものである。調べ方を身につけさせるためには、まず調べたいという興味・関心をもたせることである。本研究では、6年生の歴史学習にターゲットを置き、高知県や地域の歴史教材を取り上げてみた。(後で記述)そして、様々な調べ方を知り、経験することである。その調べて獲得した知識を授業や発表会に生かしたり、まとめたりすることで学習としての効果が上がる。さらにこれらのことを年間通して、計画的に繰り返し経験させれば、調べる力が身につく社会科や他の教科においても意欲的に学習に取り組めることができる。そこで「調べ方マニュアルカード」を作成し、その効果を実証することにした。

作成するに当たっての留意点

- ア 初めて経験させる調べ方については、教師がカードを提示しながら説明をする。
- イ 年間通じて、繰り返し経験させたり様々なパターンを経験させたりする。
- ウ 教室に常時置くことで、いつでも手にすることができるように意識させる。
- エ 活用しているときは、調べ方を確認できるものにする。
- オ 記す内容
 - (ア) 調べ方の要点
 - (イ) 調べ方の手順
 - (ウ) 心構え
 - (エ) 資料の見つけ方
 - (オ) キーワードの見つけ方
 - (カ) もち物
 - (キ) あいさつ

・図書館(本)を利用しよう・電話で質問しよう
 ・フィールドワークに行こう・インタビュー(聞き取り)
 ・手紙で質問しよう ・資料館や博物館で調べよう
 ・パソコンを使って調べよう
 ・Eメールで質問したり、他校と情報交換しよう

キーワードの見つけ方

図書館(室)を利用しよう

どんなときに
調べたいときを早く知りたとき
人物資料や人物画などを探るとき
本や事典、図鑑など複数の資料を探し出して調べたいとき

注意・心構え
みんなが静かに集中して読書を楽しむところです。マナーを守ろう。
あらかじめ本を探して、調べよう。
難しいことが出てきたら、辞書で調べてみよう。(館内にあるよ。)
本を大切にしよう。

●目次から何冊も目録を選び、本を探そう。(図書館の本の種類別の配置を知っておこう。)

●何について調べたいか明確に(「坂本龍馬」だけでなく、調べたいことのキーワードとなる出来事や人物名などもメモして持っていく。)

●人物・・・・したこと、その人の思いや考え、人柄、エピソードなど。
●出来事・・・・内容や関係した人、場所、つながりのある出来事など。
●建物・作品・・・・年代、作者、特色や場所、それに関わる出来事など。
●仕組・組織・・・・関連図や組織図に表してみよう。できれば各部のこともくわしく。
※調べてわかったことに関しての自分の考えを付け加えよう。

●持っていくもの
ワークシートやノート・ふせんやしおり(多数)・筆記用具・調べたいことを書いたメモ(または、教科書など)

●さあ、調べよう
調べたい事柄の本や事典などを複数探してみよう。
目次を見よう。(目次だけで終わらないように!)
調べたいことがあったらその心を探そう。興味を伸ばしたところをふせんをつけよう。(もう一度読み返すときに、役立つよ。ワークシートのすみに、ページ数を書いてもいいね。)
じっくり読んでみよう。
●わかったことをワークシートやノートにまとめよう。
●時間が無くなったり、「もっと知りたい」と思ったときは、手続きを踏んで本を探ろう。
●難しいことばや漢字が出てきたら、近くにある辞書ですぐ調べよう。
●「百科事典」や「図鑑」は、くわしくのっている、写真で表されていることがわかりやすいよ。ほこりをかぶっていることが多いから、活用しよう。

ひとつの友達で、自分の知りたかったことが見つからなかったら、ちがう方法を試してみよう。

インタビュー(聞き取り調査)

どんなときに
見先に行ったときなど、直接質問するときや、資料や施設などを説明してもらったとき
働いている人々などに気持ちや感想を聞きたいとき

注意・心構え
自分の聞きたいことを整理して、まとめておこう。
教えてくれたり話してくれるという感謝の気持ちをもとう。
前もってきちんと連絡を取り、相手の方の都合に合わせる努力をしよう。(迷惑をかけない。)

*行く前に
日時・学習の目的・必要な資料など(前もって電話などで連絡しておこう。)

インタビューの計画

①個人・グループ・役割分担(友達と決めよう)
②内容・・・・学習の目的にそっているか
相手の方に迷惑や失礼はないか

③必要な資料は
④メモや記録の仕方
(インタビューしながら書くのは、難しいよ。役割分担しよう。)

*カメラなどは、「撮ってもいいですか」という許しをもらおう。

●グループや一緒にする友達と台本を作ろう。
●インタビューをしよう

持っていくものは
●台本(聞きたいことやお礼のことば、つなぎのことばを書いたもの)・メモ用紙
●筆記用具・電卓代(緊急用)・カメラ、テープレコーダーなど・地図(目的地までの)

●こんにちは、〇〇小学校6年〇〇です。(あいさつ、自己紹介)
●私たちは今、社会科の時間に〇〇について、調べ学習をしています。よろしくお願ひします。
●インタビュー(台本をもとに)
●聞きたいこと。
●気持ちや考えを聞こう。
●撮影や録音・録画をさせてもらってもいいか聞こう。
●お礼のことば

●はつきり伝えよう
●聞き取れなかったりしたら、もう一度聞き返そう。
●ひとつの質問ごとに、お礼を言おう。

*もらえる資料は、もらって帰ろう。(知りたいことが、たくさんあることがあるよ。)
*学校に帰ってきて、わからないことがあったり、さらに知りたいことがあったら、できればもう一度インタビューするか、電話などで質問しよう。
*お礼の手紙を出そう。感謝の気持ちをこめて、・・・大切なことです。

- 心構えや相手方に対しての礼儀
- 準備・計画
- 準備物(持っていく物)
- 当日の手順
・あらかじめ台本を作っておく
- その他
・次へつなげる
・お礼の手紙

カ 一つの方法で調べることができなかつたときに、違う方法に切り替えたり試したりするように指導できる。

以上のことを明記し、調べ方マニュアルカードを作成した。このカードを使って、まず教師が調

山村出身の勤王の志士である。片岡孫五郎は、実際に生家が復元されており、明治時代に活躍した息子たち（片岡直輝・直温兄弟）の銅像も建てられているが、維新のときに縁の下の力もちとして活躍したことはあまり知られていない。この人物たちの思想を追究するのではなく、身近な地域の先人も国の歴史の流れに大きくかかわっており、感動的な生き方や当時の時代の流れの息吹を感じ取ることができれば、意欲的な歴史学習や調べ学習のきっかけになるはずである。しかし、この人物たちの資料が少なく、またあったとしても小学生には表記が難しい。そこで配布資料を作成し、発展的な学習として授業を行った。

その他にも高知県や地域の歴史で扱えそうな人物や事象は多い。民衆の側に立って考えさせることのできる事象や中央の大名や名士と関わった人物の働きなど、教材として有効的に活用できる素材が多く存在する。それらを精選し、教科書に関連させて効果的に学習させたいものである。

小学校の歴史学習は、歴史への入り口である。きっかけを与えてあげることで、子どもたちの興味・関心は広がる。身近な県や地域の歴史を、教科書の学習に関連させて学習することにより、歴史に対する見方や考え方を豊かにすることができないであろうか。自分の育った地域の歴史を知ることによって、歴史への扉が開くと考えられる。

第6学年社会科年間指導計画

月	単元(小単元)時間(全100時間)	要領で取り上げる人物	高知県または地域(葉山)の歴史(総合)
4	1 日本の歴史 さあ開こう 歴史の扉を	卑弥呼 聖徳太子・小野妹子・ 中大兄皇子・中臣鎌足	・永野道跡・新土居道跡・姫野々上町遺跡 跡業 (縄文時代の人々の生活)
5	1 米づくりのむらから古墳の くにへ 2 聖武天皇と都の文化	聖武天皇・行基・鑑真 清少納言・紫式部・藤 原道長・平清盛・源頼 朝・源義経・北条時宗	・肥流のくに・土佐土中 ・紀貫之(土佐日記)土中
6	3 源頼朝と武士の世の中	足利義満・足利義政・ 雪舟・ザビエル・織田 信長・豊臣秀吉・徳川 家康・徳川家光・近松 門左衛門・歌川広重・ 本居宣長・杉田玄白・ 伊能忠敬・ペリー・勝 海舟・西郷隆盛・大久 保利通・木戸孝允・明 治天皇・福沢諭吉・大 隈重信・板垣退助・伊 藤博文・陸奥宗光・小 村寿太郎・東郷平八郎 野口英世	・高徳氏(前代津野氏)業 ・初代津野氏(後代津野氏入国)業 ・豊宗我部元親(四国制覇)土中 ・長宗我部元氏、津野氏滅亡業土中 ・山内一豊土佐入国土中 ・野中兼山業土 (新田開拓・水溝、郷土・農民の暮らし)
7	4 3人の武将と全国統一 5 徳川家光と江戸幕府		・伊能忠敬(天文学者)業 ・道瑯(水溝のかいさく)業 ・一揆、打ちこわし 相良屋騒動業 ・坂本龍馬・中岡慎太郎・武市瑞山土中 ・葉山勤皇党 (片岡孫五郎、千屋菊次郎・金策)業中 ・ノルマントン号事件業中 ・片岡直輝・直温兄弟と母業中 ・平和学習 高知の空襲・関き取り学習・修学旅行の まとめ(広島の原爆)業土中
9	6 伊能忠敬と日本地図		
10	7 明治維新をつくりあげた人々 8 世界に歩み始めた日本		
11	9 戦争を体験した人々とくらし		
12	10 新しい日本、平和な日本へ 2 私たちの生活と政治 導入 1 みんなの願いを実現する政治		
1	2 私たちのくらしと日本国憲法 3 世界の中の日本 導入		
2	1 日本と関係の深い国々		
3	2 世界の平和と日本の役割		

(4) 年間計画の作成

右記は、高知県や地域(葉山村)の歴史をピックアップし、年間計画表に当てはめてみたものである。これらをすべて学習させるのは時間的に無理である。しかし、単元の導入や展開の中で人物や事象のエピソードを扱うだけでも興味・関心をもたせることは可能である。また、中心となる内容に関連させ、発展教材としていくつか取り上げれば、年間通しての指導ができると考えられる。

4 検証授業

- ・実施時期 平成16年11月
- ・対象 津野町立精華小学校6年18名
- ・単元「明治維新をつくりあげた人々」

(1) 単元の目標

- ・地域の歴史を中心に幕末から明治維新にかけての時代の流れに興味をもち、明治維新をつくりあげた人々の働きを中心に、大政奉還や文明開化、廃藩置県、四民平等などについて調べ、欧米の文化を取り入れつつ、日本が近代化を進めていったことをとらえることができる。
- ・進んでこの単元の人物や地域の歴史のことを、「調べ方マニュアルカード」を活用して、意欲的に調べ学習に取り組むことができる。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来航が人々の考え方や暮らしをどのように変えたのかを意欲的に調べ、考えながら追究している。 ・新しい世の中をつくりあげようとした人物の働きに関心を持ち、地域の先人達がどのように関わっていったかを意欲的に調べ関心を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人物を含め、この時代に活躍した人物や人々の行動などから、どのような思いで新しい世の中をつくりあげようとしたかを考えている。 ・明治政府が近代国家としての組織や形態を整えていった様子を、当時の日本社会や外国との関係から考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年表、文章、写真、図などの資料から、明治政府の諸政策や当時の人々の生活について調べ、自分のことばで表現している。 ・明治政府をつくりあげた人々とそれに関連した地域の人物のことを調べ、人物関連図に自分なりに表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの安定を求める多くの人々の動きと、新しい政治の進め方を実現しようとする人々のはたらきの中で、江戸幕府が減んでいったことが分かっている。 ・明治政府が、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めていったことが分かっている。

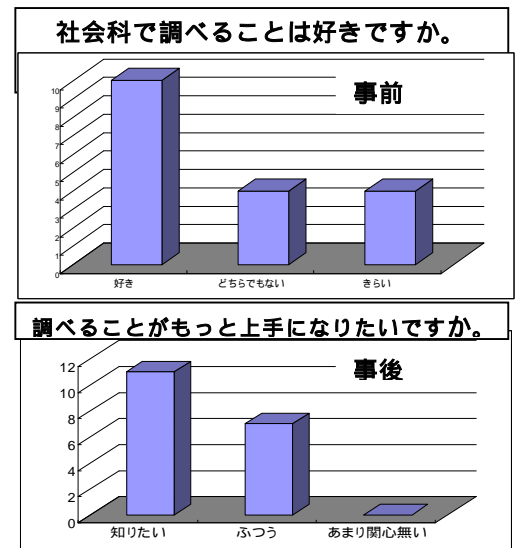
(3) 展開

導入	単元で扱う人物やそれに関係する県や葉山村の人物のこと、当時の考え方・様子など中心に興味・関心をもつ。これからの学習のめあてをつかむ。
調べる	この単元の人物と関係のある県や葉山村の人物を子どもたちの希望別に調べる。その人物一人ひとりのキーワードを考え、調べ方マニュアルカードを使って意欲的な調べ活動をする。
発表・考える	調べたことを発表し、それをもとにして学習を進め内容を深める。
まとめる	調べたことや学習したことをもとにして、人物関連図を作成する。
発展	葉山村の人物、片岡孫五郎・千屋菊次郎・金策兄弟について学習する。

(4) 調べ方マニュアルカードの活用についての授業後の分析

単元の中で、調べる方法を自分で選択し、できるだけ自分の力で調べる時間を作るようにした。調べ方について「調べ方マニュアルカード」は事前に指導し、そのマニュアルを見ながら子どもたちの活動が進んでいく。今回は、時間の関係もあり「図書室を利用する」「インターネットで調べる」という方法のどちらかに選択させた。

この時代の人物や出来事に興味関心をもたせることと、おおよその見通しをもたせるために、単元のはじめに高知県の人物や葉山村の歴史に少し触れるようにした。そして、人物一人ひとりのキーワードとなることば（出来事や関連のある人物など）をヒントにして調べる活動が始まった。人物調べを進める子どもたちの様子は、意欲的に感じられた。調べ方に迷うことなく、みんながすぐ作業に入ることができ情報となる本や事典などスムーズに探すことができた。また、あらかじめ家から関連する本をもって来るなど、見通しをもって取り組んでいる子どももいた。今調べている人物がどのように葉山や高知県の人物と関連があるのかに興味をもつことにより、あまり知られていなかった人物を調べる子どもたちも意欲的に活動できたのではないかと思う。ほとんどの子どもが自分の力で活動を続けることができたので、ホームページの量の多さ（しばって検索しても）や出てくることばや漢字の難しさにとまどう子どもたちや、まとめかたに迷っている子どもたちを、よりきめ細やかに



個別指導することができた。

課題はたくさんあるが、関心意欲という面では、前頁のグラフのようにほとんどの子どもたちが、調べることに抵抗無くなり関心が高まり、上手になりたいと思うようになった。もともとこの子どもたちは調べることが好きである。事前アンケートのきらいと答えた理由は、「めんどくさい。」「調べるのに時間がかかる」であった。しかし、検証授業後のアンケート結果からは、いろんな調べ方があることやその調べる方法が分かると、前向きに考え学習に取り組むことができると考えられる。では、調べ方マニュアルカードは、有効に使えたであろうか。

【子どもたちの感想（カードに対して）】

- ・役に立った。どうやって調べようか迷ったときに、「このカードの調べ方にしよう。」すぐに決めることができた。
- ・カードの中に「電話で聞く」方法があったので、今度試してみたい。
- ・どういう風に調べるかがわかった。・あまりカードを見なかったのに役に立たなかった。
- ・カードに字がぎっしり詰まっていたので、見なかった。・・・など

上記の感想から、調べ方を学び、活動の手助けにはなったように思える。しかし、子どもたちからの指摘のとおり、字が多く見た目に読んで学習しようという「調べ方を知る」意欲付けには少し配慮が足らなかったようである。さらに改良を加え、関心意欲を引き出すようなカード作りを考えていきたい。また、限られた時間のなかで子どもたちが効果的に調べ学習を進めるために、日ごろからカードの中身を理解させるとともに、計画的にひとつひとつの調べ方を体験させて少しずつ身につけさせることも大切である。もう少し早くからカードを作成し担任の先生に渡しておけば、より効果的であったであろうと思われる。

(5) 高知県・地域の歴史教材についての授業後の分析

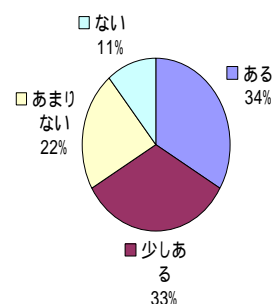
今回取り上げた人物は、片岡孫五郎、千屋菊次郎、千屋金策である。日本史に表記されるような目立った活躍は無い。しかし、土佐勤王党员として、純粋な気持ちで新しい国づくりを目指して、無念にも維新前にこの世を去った生き方には考えさせられるものもあるだろう。

事前のアンケートでは、葉山村の歴史や人物のことを子どもたちは名前すら知らなかった。関心の面においてもあまり興味を示していない。また、高知県の人物についても圧倒的に全国でも知名度が高い坂本龍馬や板垣退助、平安時代に出てくる紀貫之しか出てこなかった。学習を展開していくなかで高知県の人物を幅広く知るにより、驚きや関心がもてたのではないかと思う。そして、子どもたちの意識の中で、これほどまで高知県出身の人物が中央と関わり大事な役割を果たしてきたことうれしく感じたのではないかと思う。

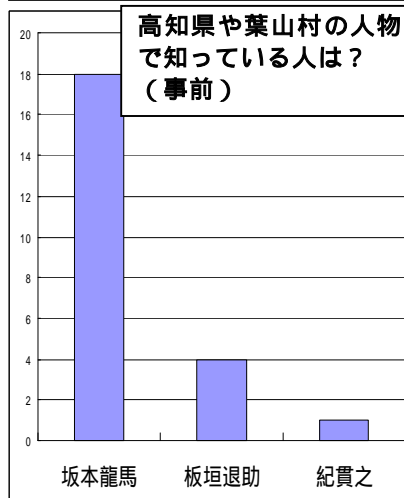
【子どもたちの授業後の感想から】

- ・坂本龍馬しか知らなかったわたしが、今や中岡慎太郎や山内容堂、片岡孫五郎、千屋菊次郎まで広がることができました。人物関連図は、とてもわかりやすかったし、これからの学習にいかしたいです。葉山村にも有名な人がいたことはびっくりです。土佐や長州、そのほかたくさん藩のことなどよくわかりました。高知の人々とそのほかの藩の人々とのつながりもよくわかりました。

高知県や葉山村の歴史に興味がありますか。事前



高知県や葉山村の人物で知っている人は？（事前）



・葉山村にもこんな片岡孫五郎や千屋菊次郎などといった偉い人がいたことにびっくりです。それに、この人達は、みんなやさしかったのですね。葉山の人は、みんなやさしいということでしょうか。こんな良い人達ばかりなのに、長生きできなかったというのはかわいそうです。人のために良いことをするというのはすばらしいことなのに。

・坂本龍馬は、すごいことをした人だということが調べてわかりました。中岡慎太郎も龍馬と一緒に薩長同盟をさせた人だということや武市半平太は土佐勤王党のリーダーだったけど土佐藩にろうやに入れられて殺されたことなどがわかりました。葉山村の人物でもこの人達と深いかかわりがあって活躍したこともわかりました。この高知県や葉山村にも、こんなすごい人がいたということ、すごく誇りに思います。高知県の人物を調べたり、学習したいです。

子どもたちの感想の中にも、上記のような前向きなものが多かった。時代背景や各藩及び各人物の関連等つかみにくい単元ではあるが、関心をもって学習に取り組めたのではないかと考えられる。また、事後のアンケートから知りたい人物や調べたい人物が広がったことも同じようなことがいえると思う。学習をすることによって、その人物を知り、自分が住んでいる村を誇りに思ったという感想が印象に残る。

しかし、いくつかの課題も残った。まず、授業時間の確保である。今回の検証授業でも、もう少し時間をかけてゆっくりと考えさせたり調べたりさせたかった。そこで、総合的な学習の時間の活用を考えていきたい。ただし、社会科と総合的な学習の時間とはねらいが違うので、それぞれの評価規準を明確にしなければならない。各学校において、総合的な学習の時間の取り扱いが違ってくると思われるが、年間を通して無理なく発展させて学習する計画を考えていきたい。

次に内容の精選である。今回は、高知県・葉山村の人物の活躍を知るために、当時の思想に少し触れた。ところが内容が、難しくなり混乱した子どもたちもいた。子どもに分かりやすく提示できる資料等の教材研究をしていきたい。

5 おわりに

「調べる力」は、子どもたちにとって、これからの社会生活において必要とされる力である。また小学校で学ぶ「社会科」特に「歴史学習」は、ほんの入り口である。そうすると小学校では、興味・関心をもたせ経験をさせることで、基礎となる部分を育てることができるのではないかと考える。また、自分の生まれ育った県や地域の歴史を知ることは、地域・国土への理解・愛情を深めることにつながる。

社会科の授業によって、歴史学習の入り口に立ち扉を開いた子どもたちが、身のまわりの社会や政治に目を向けるとともに歴史とのかかわりを考えたり、先人の偉業から学んだり、反省点を生かすことのできる広い視野をもち、豊かな心で学び続けるきっかけになればと思う。そして、「調べる力」を育て、常に何かに関心をもち追究する心をもつ子どもを増やしたい。その気持ちをもち続け、教壇に立ち取り組んでいきたいと考えている。

主な引用・参考文献

- 『小学校学習指導要領解説 社会科編』文部省（平成11年5月）
- 長谷川康男 著『教科書を豊かに発展させる授業 社会科』学事出版（平成14年2月）
- 北俊夫 著『新社会科の発展教材&面白調べ学習』明治図書（平成15年3月）
- 北俊夫 著『社会科調べ学習のための学びカード』明治図書（平成10年1月）
- 北俊夫 著『小学校・歴史学習の変革』明治図書（平成11年3月）
- 谷川彰英・片上宗二 著『夢を育てる社会科教育』東京書籍（平成12年3月）
- 『葉山村史』葉山村（昭和55年7月）